

決算審査特別委員会視察報告書

【令和元年10月15日】

視察日 令和元年10月10日（木）

視察地及び班編成

第1班

- ・視察地 茗荷谷ここわ保育園／動坂会館・こみゅ動坂
- ・班長 たかはま なおき 委員
- ・班員 山田 ひろこ 委員長、山本 一仁 副委員長、のぐち けんたろう 委員、小林 れい子 委員、宮本 伸一 委員、海津 敦子 委員、海老澤 敬子 議長

第2班

- ・視察地 グッドライフケアセンター向丘／白山坂上公衆便所・白山公園便所
- ・班長 吉村 美紀 委員
- ・班員 市村 やすとし 委員、萬立 幹夫 委員、田中 和子 委員、松下 純子 委員、宮崎 こうき 委員、岡崎 義顕 副議長

第3班

- ・視察地 青柳保育園／文京スポーツセンター・教育の森公園
- ・班長 名取 顕一 委員
- ・班員 松平 雄一郎 委員、板倉 美千代 委員、松丸 昌史 委員、浅田 保雄 委員、品田 ひでこ 委員、西村 修 委員

視察報告内容

第1班

1 茗荷谷ここわ保育園

2019年4月に、文京区立第一中学校の校庭の一部を利用して開園した、株式会社ディアロークが運営する私立の認可保育所である。不燃加工した木材を壁材に使用した温かみのある内装となっている。

定員は、0歳児6名、1歳児8名、2歳児10名、3歳児12名、4歳児12名、5歳児0名の合計48名である。3、4、5歳児は、パーティションを開放するとオープンスペースになり、異年齢で自由に遊べる縦割り保育環境が実現されている。

週に2日、外国語の先生を招き、0歳から英語に親しめる保育環境となっている。また、緑に囲まれた環境であり、10か所の公園、小石川図書館等、近隣施設を活用し、園児のお散歩や遊びを充実させている。

隣接する中学校の運動会予行練習に参加させてもらい、在園児、生徒ともに非常に喜んでいただたことである。中学校からボールの飛び込み等を避けるため、学校に面した窓にはルーバーとネットによって安全が確保されていた。

職員室からカメラで各部屋に異常がないかチェックできるようになっており、扉の指はさみ防止、壁面の高い位置のソケット等、危険がないよう十分な配慮がされている点を確認した。

中学校の校庭利用は月一回程度行われており、今後、保育園と第一中学校との交流が充実していくことを期待したい。

保育日誌はICT化が進められており、保護者とのやり取りも今後検討していくとのことであり、園の要望に応じて区が適切に対応していくことを要望する。

2 動坂会館・こみゅ動坂

2018年10月に旧動坂福祉会館を建て替え、区民会館を併設した障害者グループホームとして開館した。

1階が動坂会館として近隣住民の活動の場となっており、2、3階が障害者グループホーム、地下1階が事務所・調理スペースとなっている。

オープンの際には定員8名に対して38名の入居希望があった。グループホームの現在の利用状況としては、定員8名のうち、現在5名。3月までに新たに3名が入居予定とのことである。

障害の種類と程度に応じて適切な配慮・支援を行い、入居者の安定した暮らしを確保するとともに、円滑な運営が行われている。併せて、個々の状況に合わせてホームヘルパーを利用することで、より充実した福祉が図られている。食事をとる食堂が各階に設置されているが、希望に応じて、個室で食事を取ることができるようになっている。

動坂会館の利用率は年々向上しているとのことだが、まだ30%台と低いままとなっている。動坂会館は3口のIHクッキングヒーターが入っているものの、区の規定により飲食利用はできないとのことであり、地域団体のニーズに応じて柔軟な対応を図ることで利用率向上を期待したい。

こみゅ動坂は、入居者の生活の質が保たれた運営がされていたが、受け入れ可能数に対して入居希望者が多く、文京区において更なる障害者施設の設置を要望する。

第2班

1 グッドライフケアセンター向丘

1階は、共有スペースとして、地域交流スペースと高齢者あんしん相談センター本富士分室があり、職員ブース及び相談室の広さも十分であった。

2階は、小規模多機能型居宅介護・事務室、通所スペース、ジェットバス機能の付いている車椅子用浴室があり、週に2回は必ず入浴する日を設けている。また、足・手・筋肉を鍛えることができる、レッドコードという紐を利用したりハビリ器具がある。食事の準備等も、職員がすべてやるのではなく一緒に行う等、利用者の方が生き生きと活動できる環境が、多くの工夫により盛り込まれている。お茶碗については、瀬戸物のような見た目だが、割れない素材を使用している。

3階には、小規模多機能居宅介護の宿泊スペースとして9床あり、1日平均4.5室が使用されており、登録者が28名いる。

4階・5階のグループホームの宿泊用個室では、窓を開けた際は、入居者が勝手にベランダに出られないよう工夫がなされている。災害時には、ベランダから即時に窓を開けることができ、避難訓練も年2回行っている。

特養に入居する前の受け皿の役目にもなり得る施設であるため、今後、受け入れにより、入居者が増えるのが予想されることから、区内各地域にこのような施設を増設していただきたい。

2 白山坂上公衆便所・白山公園便所

白山坂上公衆便所は、限られたスペースの中で、入口外観が綺麗になった。今現在、女子トイレが誰でもトイレと一体となっており、表示もわかりやすく、また、車椅子利用の方向けのスロープも位置的に利用しづらい状況だが、今後、区としても、手すり部分に新たに女子トイレの表示等を掲示するなど工夫してくださる予定であり、前向きなご対応を評価したい。

スロープ部分に対する意見、女性トイレと誰でもトイレの一体化の是非を、今後、別場所にて公衆便所を作る際に考慮していただきたい。

白山公園便所整備の際、公園内の桜の木を切らなくても済むよう、トイレを三連にせず設計する等工夫をされたこと、トイレ脇に災害時にトイレ洗浄を行うための防災井戸の設置、あじさいまつりの際、今までは仮設トイレの設置をして対応するような状況だったが、この度の整備により、仮

設トイレを設置しなくてもトイレ数が足りるようになり、また、公園と住宅が隣接している塀も、ご近隣の方へご理解をいただき高さを低くする等、見通しが良くなり安心感が増した。公園内の環境のさらなる整備に繋がったことは評価する。

第 3 班

1 青柳保育園

当保育園は、改築工事を終え、令和元年 9 月 17 日にリニューアルオープンをし、来年 4 月から 9 名の 0 才児保育が可能となったことは評価をする。また、限られた敷地スペースを有効活用し、設計段階から現場の保育士の声を反映し、設計に関して多くの工夫が確認できた。

階段下に荷物置き場や収納スペースを設置、通路に「もりのひろば」として読書ができる空間の創出、雨の日でも屋外遊びができる「なかよしひろば」の実現、さらには調理室の窓に、園児達の目線で室内を見学できるような階段を設置するなど、様々な工夫が施されている。

かつては高速道路が近いことにより、午睡時の騒音の課題があったが、設計の工夫で非常に静かになったという点も高く評価する。

また、既存保育園とは異なり、0～2 歳児室が 1 階、3～5 歳児室を 2 階に配置し、施設外へ移動する際の幼児の移動がスムーズになり、外遊びの時間が増えた点、そして 2 階からも直接区道に出られる出入口を設け、災害の際、合計 4 方向への避難経路が確保できた点も大変評価したい。

ベランダスペースには当該園児達のプール利用だけではなく、近隣の施設の園児も利用ができるよう、職員用の更衣室やトイレを設けるなどの配慮もみられたが、今後は、近隣の私立保育園・幼稚園への貸出しなど、さらに連携を図ることを希望する。

2 文京スポーツセンター・教育の森公園

当施設は、平成 29 年 3 月 24 日から平成 30 年 5 月 31 日まで改修工事を行い、リニューアルオープンした。館内が明るくなり、エレベーターの設置、全館冷暖房設備の完備、館内バリアフリー化が実現し、来場者数も年間 44 万人から 48 万人へと 4 万人増え、区民の方から好評を頂いていることを評価する。なお、館内の下足上履きの境界が分かりにくい点や、履き替え時の煩わしさを解消するための方策、例えば、館内下足禁止にする等を、是非検討頂きたい。また、3 階トレーニングルームのマシン更新の際は、是非最新型を検討してほしい。

教育の森公園については、自由広場の透水機能を向上させた舗装、遊歩道の新設、側溝の配置など、使い勝手が格段に向上したことを評価する。また、自転車置場に災害用マンホールトイレが 9 基新たに設置され、防災力の向上に寄与している。さらに樹木が適切に伐採・配置され、園内が明るく歩きやすくなった点も評価する。

なお、じゃぶじゃぶ池については、7 月から 9 月までの 2 ヶ月間だけ使用し、その期間以外は立ち入り禁止措置がとられているが、このスペースの有効利用を是非検討して頂きたい。